

令和6年度 学校関係者評価書

学校園名 附属高等学校

1 学校関係者による評価

領 域	学校関係者による評価と今後の課題
学校運営	<p>評価できる点</p> <ul style="list-style-type: none"> • Google for Education、BLEND等の活用による効率的な業務改善は評価できる。 • 保護者向け授業公開は大変好評であった。行事とはまた違い普段の様子がよく伝わるため、今後も継続してもらいたい。 <p>今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> • 外部向け学校説明会では、学校紹介・アピールにおいてもっと生徒の協力を仰いでもよい。 • 広報について、生徒の活動の動画を生徒が作成しWebページに掲載するなどして業務を効率化し、また多くの方に本校の状況を知ってもらう機会とすべきである。 • 部活動において、生徒の意欲と保護者からの要望があるものの、指導者（顧問・部活動指導員）不足が理由で、練習・対外試合・合宿を行うことができない状況が生じている。それらを実現することも念頭におきながら、外部委託等を検討していただきたい。 • 生成AI等を利用して、教職員の事務作業の負担を軽減する体制を構築し、人間にしかできない業務に、教職員の労力を集中すべきである。 • 様々なミスや事故に対して、原因を究明し、具体的な再発防止策を策定すべきである。 • 夏季の熱中症対策など、後援会と協力して進めて欲しい。
教育活動	<p>評価できる点</p> <ul style="list-style-type: none"> • 一つのテーマを授業教科のレベルを超えて、より深く追究する経験は文系理系を問わず良い経験になると思われる。 • 模試等を活用して、自らの学習到達点の位置を冷静に分析することは大切であるので、今後も継続して欲しい。 • 相談会や面談は、定期的に行うことが重要である。継続して行っていただきたい。 <p>今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> • SSH活動については、「生徒エージェンシーの育成」という目標と具体的な活動との関連を明確にする必要があるのではないか。 • 社会の進歩（特にICT関連）が著しい分野だけに、遅れを取らないよう、今後も躊躇なく進んで頂きたい。 • 進路指導、キャリア教育のために、ロールモデルとなる同窓生との交流も重要である。 • 情報系（データサイエンス等）の学部の新設が増えているため、その方面のガイダンスの設置も考慮して欲しい。 • 「適切な情報対応能力の育成」に関して、保護者へも情報共有をして欲しい。

	<ul style="list-style-type: none"> SSHの活動が限られた一部の生徒が取り組むものと受け止めている生徒が少なくない。非常にもったいない。どの生徒にも身近なものとして捉えられるように、日頃の授業や学校内での紹介の仕方に、何か工夫を凝らしていただきたい。
研究活動	<p>評価できる点</p> <ul style="list-style-type: none"> 「国立附属SSH生徒研究交流会」の立ち上げや国際共同研究プロジェクトへの参加は、評価できる。 <p>今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科融合については、例えば理科系の科目についてだけでも、物理、生物、化学、地学などの相互の関連性について、今のうちから感覚を掴んでおくのは大事だと考える。 理数融合と工学的発想は、大学においていわゆる文系（例えば経済学、経営学はもちろんのこと、文学や芸術学等も含む）を学びたいと思う生徒にも必須であり、すべての生徒に基礎知識として植え付ける必要があると思われる。 本校の研究活動の普及に関して、デジタル化により、教員の負担が大きくなる方法で結果を出せるようなシステムの考案が必望まれる。 メンタルに関わるトラブルは、時間の経過とともに加速度的に影響が大きくなり、深刻化する可能性が高いので、最優先事項として迅速な対応が可能となるよう、体制や連絡フローの早急な明確化が求められる。
学生の教育・支援活動	<p>評価できる点</p> <ul style="list-style-type: none"> 適切な教育実習の実施、デジタル環境の整備活用による効率的な運用は評価できる。 一人でも多くの教育実習生が本校での教育実習が良かったと実感できるような指導を今後も継続していただきたい。 <p>今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 本校で教育実習を行なった大学生が実際に教員になったかなど、追跡調査も必要ではないか。
社会貢献活動	<p>評価できる点</p> <ul style="list-style-type: none"> 特別支援学校等との交流によるインクルーシブ活動や、管理職の地域活動への参加は評価できる。 <p>今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域社会への貢献について、生徒会とも連携するなどして、生徒の参加の機会を作ることが望まれる。 隣接している老人ホームと協力して、常時不足していると言われていた、介護職についての理解をすすめる事も考えられる。 地域と深く関わりを持つことはお互いにメリットが多いため、学校行事や課外活動などで交流の機会をさらに増やし、生徒全員が卒業までに、一度は何らかの地域貢献ボランティアに参加できるとよい。